



地域の課題を見つけて解決する、学生主体の活動を支援 ～平成 29 年度は 8 件の地域貢献活動支援事業をスタート～

横浜市立大学では、平成 23 年度から「学生が地域に貢献する研究や活動により、自主的な探求心、コミュニケーション力、積極的な行動力、チャレンジ精神を養う活動」を助成金で支援する「学生が取り組む地域貢献活動支援事業」を実施しています。平成 25 年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」^{※1}の採択をきっかけに、地域で活躍できる人材の育成の一環として行っており、自治会町内会と連携しながら進めている活動など、地域に定着している取り組みもあります。

平成 29 年度は審査の結果、継続 6 団体と新規 2 団体が採択され、6 月から活動が始まりました。いずれの団体も地域での活動に、学生ならではの視点と行動力で取り組んでいきます。

〈平成 29 年度学生が取り組む地域貢献活動支援事業一覧〉

	団体名	事業名
1	【新規】石川ゼミ	女性視点の避難所改善プロジェクト
2	横浜市立大学 鈴木・国吉ゼミ黄金班	黄金町の魅力を伝えるブックレットの作成及び交流拠点の創出
3	看護学科いのちの授業グループ	いのちの授業訪問事業
4	金沢研究会	金沢区に対する地域資源を活かしたまちづくりと研究調査活動
5	横浜市立大学 三輪ゼミ	まちこどもプロジェクト 2017
6	【新規】YCU SCIENCE らいげーす	舞岡・戸塚を拠点とした市民科学の発展のための架け橋活動
7	科学倶楽部	地域学生のための科学実験講座
8	YDC	医学生・看護学生が創る『医療』教育

学生の活動の様子は、横浜市立大学の WEB サイト^{※2}で随時公開します。また、本事業の成果は、平成 30 年 3 月頃に開催する成果発表会（一般公開）で報告する予定です。

※1 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（大学COC事業）」… 平成 27 年度より事業名称変更

自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援することで、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目指す文部科学省の事業で、横浜市立大学「環境未来都市構想推進を目的とした地域人材開発・拠点づくり事業」は平成 25 年度 319 件の申請の中から採択された 52 件のうちのひとつです。

※2 横浜市立大学 WEB サイト→ヨコハマから世界へ→PICK UP→学生が取り組む地域貢献活動支援事業→平成 29 年度採択事業一覧
http://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/contribution/education/stu_activity/seisaku.html

〈参考〉平成 29 年度学生が取り組む地域貢献活動支援事業の紹介

1. 【新規】石川ゼミ 女性視点の避難所改善プロジェクト



私たちは、28年4月に起こった熊本地震直後の避難所の状況を調査するため現地に行った際、若い女性の意見が反映されていないのではないかという疑問を抱きました。

そこで「若い女性の視点による、避難所生活を快適に過ごす工夫」をテーマに、行政や自治会婦人会との意見交換を行います。また、地域でワークショップを実施して、避難所における女性視点を定着させるアイデアを提案し具体化させていきます。これらの活動をパンフレットとwebで公開します。

3. 看護学科いのちの授業グループ いのちの授業訪問事業

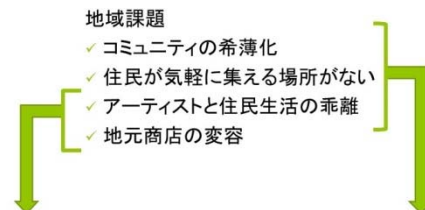


いのちの誕生に対する理解を深め、自分自身も他者も大切であるという事や、成長の過程で支えてくれた周囲の人への感謝の気持ちを持ってもらうために、私たちは横浜市内の小学校を対象に訪問授業を実施しています。

内容は、小学校側と相談しながら、前半45分程度の講義形式の授業で生命誕生のプロセスなどを伝えます。その後45分程度で、赤ちゃん模型を用いてのおむつ交換や抱っこ、沐浴、心音の聴取などさまざまな体験をしてもらい、いのちを身近に感じてもらいます。

2. 横浜市立大学 鈴木・国吉ゼミ黄金班 黄金町の魅力を伝えるブックレットの作成及び 交流拠点の創出

地域課題と解決案



提案① ブックレットの作成 提案② 住民の交流拠点の創出

黄金町では、20年から「黄金町バザール」を開催して、文化芸術の力を使った安心安全のまちづくりを行っていますが、地元商店の減少や住民とアート活動とがうまく融合していないという課題があります。

29年度は「ヨコハマトリエンナーレ」と「黄金町バザール」を地域一体となって盛り上げるため、黄金町の魅力を伝えるブックレットを作成します。また、交流の場に活気をもたらすため、多年代に向けたさまざまなイベントを開催して地域のつなぎ役となる活動を行います。

4. 金沢研究会 金沢区に対する地域資源を活かしたまちづくりと 研究調査活動



金沢区には豊かな地域資源がありますが、その魅力を伝えきれていないように感じています。そこで、金沢区の特産物の魅力を発信する「瀬戸マルシェ」や夜景とイルミネーションを演出する「瀬戸あかり」を継続的に開催して、地域資源の利活用や情報発信を行い、地域の賑わいを創出します。

加えて29年度は、金沢から鎌倉までの地域資源を新たに発見し歴史を振り返る「歴史文化再発見まち歩きツアー」を実施する予定です。

5. 横浜市立大学 三輪ゼミ まちこどもプロジェクト2017



私たちは、さまざまな年代の子どもが、成長段階に合った方法で地域の中で活躍しながら、地域に愛着を持てるように支援する活動を行っています。

29年度は、これまで金沢区と青葉区の2地域で行ってきた活動を相互に乗り入れた企画を展開します。金沢シーサイドタウンでは乳幼児とその親のまちへの参画や、並木で生活する小・中・高校生を対象とした活動を展開し、青葉区では今まで連携している保育園の保護者や卒園生も巻き込み、防災やおさんぽを切り口に展開します。

7. 科学倶楽部

地域学生のための科学実験講座



私たちは、地域の小・中・高校生に向けて、科学に興味・関心を持てるような体験の場を提供し、理科教育の楽しさを知ってもらう活動を行っています。子どもたちが将来職業として科学に携わりたいと思ってくれるように、学生の視点で貢献することも目的としています。

小・中・高校の学習範囲よりも高度な実験を行う教室や、経済的な理由から実験教室に参加できない生徒・児童向けの出張型実験教室、また29年度は新たに、実験教室の動画配信などを行います。

6. 【新規】YCU SCIENCEらいげーす 舞岡・戸塚を拠点とした市民科学の発展のための 架け橋活動



舞岡・戸塚地区の住民の科学への関心を高めるため、地域の小・中・高校で行っている科学活動を支援し、児童・生徒の自然科学への関心を高めるとともに、保護者の方にも市民科学を知っていただく活動を展開します。

具体的には、ハグロトンボの観察会やサイエンスカフェの開催、科学部などの部活動支援、夏期・冬期講習の支援などを行う予定です。また、それぞれの活動を連携させて横の繋がりを作り、地域の科学活動の交流やお互いの活動を紹介する機会を増やしていきます。

8. YDC

医学生・看護学生が創る『医療』教育



昨今、医療の需要と供給のアンバランスが問題となっており、医療を受ける患者側に医療の適正利用を伝える必要があると考えます。そこで、小・中学生に向けた医療の適正利用を伝える訪問授業を行っています。

29年度も28年度同様に、6校7回の小・中学校での授業の継続開催と、「よこはま大学まつり」に参加の予定です。また、昨年取ったアンケートをもとに授業内容のブラッシュアップを重ね、SNSなどを用いて本事業の広報活動も、より一層進めていく予定です。